

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 4 日現在

機関番号：13902

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23531001

研究課題名(和文) アジア都市国家における「日本型授業研究・校内研修モデル」導入の可能性に関する研究

研究課題名(英文) Implementation of a Japanese model on Lesson Study/In-Service Teacher Training into Asian countries

研究代表者

久野 弘幸 (Kuno, Hiroyuki)

愛知教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：30325302

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円、(間接経費) 1,110,000円

研究成果の概要(和文)：本研究により、シンガポールおよびインドネシア・バンドン市において「授業研究(Lesson Study)」による授業改善ならびに現職教員研修に着目した結果、授業研究およびそれを支える校内研修体制において理論的研究が進展していること、協同的教材研究の導入や児童の予想される反応を織り込んだ指導案開発など、「日本型授業研究モデル」が現地の教員高度化のニーズと合致した形で展開されていることが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：In this research it has revealed that Lesson Study approach originated by Japanese school based teacher training has been influencing to develop high quality teacher education in Asian country/city such as Singapore and Bandung, Indonesia. Some major aspects of improvement of lesson and teacher education are indicated a) Kyozaï-Kenkyu as collaborative teachers research on learning topics and b) lesson plan improvement such as introducing students predictions and concept of the Case Student that is closed up as focused target student. These aspects are significantly influenced by Japanese culture of Lesson Study that is shared among schools in Japan.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：授業研究 校内研修 WALS アジア

様式 C-19、F-19、Z-19(共通)

## 1. 研究開始当時の背景

教育方法学分野においては、教育実践の基本原理の解明を図る「授業研究」は、教育方法学の主要な研究領域の一つであり、特に近年学会において一段の注目を集めている。教育方法学分野において「授業研究」が注目される背景には、主に2つの国際的な潮流がある。一つは、OECDによるPISA研究やIEAによるTIMSS研究(特にビデオによる比較授業研究)等による国際学力比較調査であり、もう一つは、J. W. StiglerやC. Lewisらによる日本の授業研究の分析ならびに紹介と、それに触発された授業研究の「世界化」の動きである。

研究代表者は、2002年以降の日本国内における学校現場との実践研究の経験を踏まえ、2005年より香港教育大学にて開催された「国際授業研究カンファレンス(Annual Conference on Learning Study)」に参加し、日本の授業研究ならびに校内研修について発表を行ってきた。同カンファレンスは、2007年より「世界授業研究学会(WALS: World Association for Lesson Studies)」に移行している。

WALSにおける研究発表が認められ、2008年4月にはシンガポール北部第4地区(N4-Cluster)“Lesson Study Seminar”において現地の小中学校における授業研究・校内研修の指導を行うために招かれた。また2010年6月には、“Lesson Study Symposium”(シンガポール校長会主催)に招聘され、講演と授業研究ワークショップを行った。

典型的な都市国家であるシンガポールにおいては、創造的な人材育成をめざして2004年からTLLM(Teach Less & Learn More)政策を進め、いわゆる「アチーブメント型」の学力観・授業観から、探究・創造型の学力観・授業観へと転換を図っている。シンガポールにおける授業研究・校内研修への注目は、このような政策に裏打ちされたものであるが、この傾向はシンガポールのみならず、大きな国土を持たない都市国家型のマイクロステートに共通する現象である。その例が、国際授業研究学会を開催してきた香港および、2010年に同学会を開催するブルネイである。

このような背景の中で、本研究においては、シンガポール、香港、ブルネイの三ヶ国(地

域)を取り上げ、各国における授業研究・校内研修の実態把握ならびに「日本型授業研究モデル」の有効性について検証を行う。これら小規模な都市型国家に着目したのは、いずれも伝統的な「学力」水準の高い国であり、それらの国が「授業研究」や「校内研修」体制を整備することでどのような次世代育成を視野に入れているかを明らかにするためである。これら教育立国とも言える小規模国が、「個に即した指導」という日本の授業研究の特質をどのように捉え、学力観・授業観の観点からどのように評価するのか、この研究により日本との比較・対照することで、各国における「授業研究」の主要概念が浮き彫りにできるであろう。

## 2. 研究の目的

2000年代以降、主にアジア諸国において授業改善の営みである「授業研究(Lesson Study)」の開発・実施と授業研究を通じた現職研修、とりわけ「校内現職研修(校内研修: In-service Teacher Training)」体制の整備が進んでいる。本研究では、シンガポール、香港、ブルネイというアジアにおける都市型国家において、授業研究およびそれを支える校内研修体制がどのように整備されようとしているのかを明らかにするとともに、それらの国において「個に即した指導」という「日本型授業研究・校内研修モデル」(以下、「日本型授業研究モデル」とする)を試行し、その有効性を検証することを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究は、以下の計画・方法によって遂行する。

- (1) 継続的に収集してきた授業研究ライブラリより、これまでに開発された授業研究および校内研修の「ツール」や「手法」を整理し、「日本型授業研究・校内研修モデル」を開発する。
- (2) 「日本型授業研究・校内研修モデル」を海外の共同研究者とともに、現地の小中学校において実施し、受講した教師への意識調査および授業実践の分析を行う。
- (3) 対照調査として、国内においても授業研究および校内研修に熱心に取り組む学

校を3校程度(愛知・福岡)選んで同様の調査を行い、日本の事例とアジアの都市型国家の間の特徴を分析する。

#### 4. 研究成果

##### (1) 研究対象の修正

本研究を遂行していく過程で修正事項が生じた。一つには、調査の対象である。当初、調査対象としていたブルネイに代わって同じイスラム圏でありかつ授業研究への意識の形成に変化が見え始めたインドネシアを取り上げた。また香港については、受け入れ大学である香港教育大学における学内事情により授業研究の取り組みが急速に縮小し、継続的な研究を行うことができなくなった。そのため、本研究においては、シンガポール、インドネシアにおいて調査を行い、香港の代替としてカザフスタンにおいて予備的調査を行うこととなった。

##### (2) 研究の成果

ここでは、「主な発表論文等」の に示したインドネシアにおける事例を取り上げ、研究の成果を示す。

インドネシアでは、1990年代後半よりJICAによる支援を受け、急速に授業研究が発展してきた。論文では、聖ウルズラ小学校における「授業研究における学校改善プログラム」を事例に、その過程と成果を明らかにした。日本の授業研究の成果を踏まえて 教師の学びを促す授業研究の組織構成、および 教師の学びのステージとなる授業研究サイクルの2つを視点に取り上げた。

具体例を一つ挙げれば、授業計画を作成する段階で授業計画に「予想される児童の反応」の欄を設け、「個に即した授業」という日本の多くの学校において取り入れられている視点を計画に取り入れるようになった。この欄を設けることにより、それまで「どのように授業を行うべきか」という教師の教授活動として認識されていた授業が、「子どもはどのように学んでいるか」という子どもの学習活動として認識されるようになり、指導観の転換をもたらすようになった。

このほか、研究を進めるうちに明らかになった世界における「日本型授業研究」受容の一端を示す。英国の「授業研究」研究者 Pete Dudley 氏は、Teaching and Teacher

Education 誌に掲載された論文において、「個に即した指導」という日本の授業研究の「抽出児」という授業観察の手法を Case Student として意味づけ、英国の授業研究の方法論の一つとして提起している。

また、シンガポールで開催された教員向け授業研究セミナー講師の Lee Shock Mee 氏は、日本での授業研究の研修中に参観した研究授業の中から、「板書」に着目し Bansho としてその意義を解説していた。

##### (3) 結語

本研究によって得られた結論は、以下の通りである。

日本から一定の影響を受けて「授業研究」が比較的受容されているシンガポール、インドネシアを事例にみても、いわゆる本研究で想定した「日本型授業研究・校内研修モデル」は、形式的には継承されているとみることができる。しかし、その内実は、それぞれの国の教育課題克服の文脈によって修正ないし、現地化しており、「日本型授業研究・校内研修モデル」が「受容」されることや「適用」されるということではない。むしろ、本研究の今後の課題として確認された認識は、授業研究が世界的に拡大していく(グローバル化)していく過程と、それが個々の国や研究者の文脈で修正、現地化していく(ローカル化)過程が並行して進行していると捉えることである。

#### 5. 主な発表論文等

##### [雑誌論文](計3件)

Kuno, Hiroyuki (2013). Lesson Analysis: A New Perspective of Lesson Study. Center of Excellence, Nazarbayev Intellectual Schools/University of Cambridge, *Pedagogical Dialog*, pp. 37-41. 査読なし

Suratno, Tatang & Kuno, Hiroyuki (2013). Lesson Study Development in Asian Countries: Focusing on "School Improvement Program" in an Indonesian Primary School, 愛知教育大学生活科教育講座『生活科・総合的学習研究』第11号、1-10頁. 査読なし  
(<http://hdl.handle.net/10424/5162>)

Kuno, Hiroyuki (2011). Conceptualizing Lesson Study as Change Management Recipe. Center of Excellence, Nazarbayev Intellectual Schools, *Teacher Professional Development: Traditions and Changes*, pp. 4-12. 査読なし

#### [学会発表](計8件)

Kuno, Hiroyuki, Lesson Study: ein Blick nach Japan, Vortrag der Fachbereich 01 (Erziehungswissenschaft), University Kassel, Germany, 2013.06.27. (カッセル大学・ドイツ)

Kuno, Hiroyuki, School-based development and Sustainability of Lesson Study: the 21st Century teachers' competencies and improving teachers (Keynote speech). Singapore Lesson Study Symposium 2013: Improving Teaching & Learning through Lesson Study, Orchard Hotel, Singapore, 2013.06.07. (オーチャードホテル・シンガポール)

Kuno, Hiroyuki, New Strategy and Teacher Training toward 21<sup>st</sup> Century - Redesigning Teacher Training Policy and bottom up Approach to Pedagogical Challenges - (Keynote speech). 2<sup>nd</sup> International research-to-practice Conference, Teacher Professional Development: Traditions and Changes, Exhibition Center Korme, Astana, Kazakhstan, 2012.12.04. (コルネ国際会議場・カザフスタン)

久野弘幸、サルカール・アラニ＝モハメド・レザ、田村知子「アジアにおける「日本型授業研究・校内研モデル」の導入に関する研究(2) インドネシアにおける10年の授業研究の展開と新動向」、日本教育方法学会 第48回大会、2012年10月7日、福井大学

久野弘幸「アジアにおける「日本型授業研究・校内研モデル」の導入に関する研究 国際的な学び合い文化の出現と日本の位置」、日本カリキュラム学会 第23回大会、2012年7月7日、中部大学

Kuno, Hiroyuki, Impact of Lesson Analysis: How can we share the values of high quality lesson? (Keynote speech). 5<sup>th</sup> International Conference of Lesson Study (ICLS 2012), Indonesia Center for Lesson Study, Indonesia University of

Education Indonesia, 2012.07.13. (インドネシア教育大学・インドネシア)

Kuno, Hiroyuki, Reinforcing the Lesson Study Programme: Innovation of School, Lesson and Teachers (Keynote speech), The 1st National Lesson Study Conference, Bahagian Pendidikan Guru/SEAMEO RECSAM, SEAMEO RECSAM, Penang, Malaysia, 2011.12.13. (ASEAN教育大臣会議 理数教育地域センター・マレーシア)

Kuno, Hiroyuki, Lesson Study from Japanese School Leadership Perspective: Conceptualizing Lesson Study (Concurrent Session), International Scientifically-Practical Conference, AEO Nazarbayev Intellectual Schools, Exhibition Center Korme, Astana, Kazakhstan, 2011.12.05. (コルネ国際会議場・カザフスタン)

#### [図書](計1件)

久野弘幸「授業研究による学校カリキュラムの編成と改訂」の場正美・柴田好章編著『授業研究と授業の創造』溪水社、2013年、157-175頁

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

久野 弘幸 (KUNO, Hiroyuki)  
愛知教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号：30325302

##### (2) 研究分担者

サルカール・アラニ モハメド・レザ  
(Sarkar Arani Mohammad Reza)  
帝京大学・教育学部・准教授  
研究者番号：30535696

田村 知子 (TAMURA, Tomoko)  
中村学園大学・栄養科学部・准教授  
研究者番号：90435107